様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：１４７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１１７７７

研究課題名（和文）移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承

研究課題名（英文）Preservation and Inheriting of Memories and Artifacts Related to Emigrants in Wakayama Prefecture

研究代表者
東　悦子（Higashi, Etsuko）

和歌山大学・観光学部・教授

研究者番号：００３６２８５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：和歌山県日高郡美浜町出身のカナダ移民及び同県紀の川市やその周辺（旧那賀地方）出身の米国移民を主たる対象として他機関の研究者や地域の団体と連携しつつ、出移民に関する記憶の保存と継承を目的に、移民した家族がいる家庭に残る遺物の目録化や記憶の聞き取りを行い、その成果は展示会の開催や冊子の発行によって公開。主な発行物は、2020年『移民と和歌山 三尾のカナダ移民』日・英版三つ折りパンフレット、2021年『移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承～那賀地方における移民の記憶～』、2024年「移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承 帰加二世水田治司氏の『雑記帳』から」である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
和歌山県紀の川市の家庭に保管されていた移民に係る遺品約400点を目録化したことで、世代交代とともに消失の恐れがあった資料が、大学の研究所に寄贈された。保存と継承という点で意義があり、これらは移民史を紡ぐディテールとして今後研究資料としても活用されるであろう。次にその遺物を展示し、公教育であまり取り上げられていない日本人海外移民の歴史に触れる機会を提供したことで、来場者から新たな情報が得られ、移民を知らない世代の関心を喚起することにもなった。加えて渡航先で言葉・文化・制度の壁などに直面した移民者の経験に触れ、現在、労働の担い手として日本で働く外国籍の人々との共生についても考える機会を提供できた。

研究成果の概要（英文）：The aim of the research is to preserve and inherit memories and artifacts related to emigrants from Wakayama Prefecture. The main subjects are Japanese migrants from Mio to Canada and Japanese migrants from Kinokawa City and its vicinity (former Naga area) to America. The results were made public through the exhibitions and the publication of booklets. The main publications are: " Japanese Migrants from Mio Village to Canada" a tri-fold pamphlet in Japanese and English in 2020; " Preservation and Inheriting of Memories and Artifacts Related to Emigrants in Wakayama Prefecture: Memories of Migration in Naga Region" in 2021; and " Preservation and Inheriting of Memories and Artifacts Related to Emigrants in Wakayama Prefecture: From the ‘Miscellaneous Notes' of Mr. Haruji Mizuta, a second-generation immigrant in Canada” in 2024.

研究分野：移民研究

キーワード：移民の歴史　移民県和歌山　出移民の遺物　出移民の記憶　保存と継承　地域連携

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

「移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承」

１．研究開始当初の背景

日本人集団移民のはじまりは明治期にさかのぼる。移民は、その頃より太平洋戦争をはさんで高度経済成長期あたりまでの日本全体が貧しかった時代の、過去の一現象であろうか。あるいは移民政策に苦心している諸外国だけの課題であろうか。それらの問いに対して、少子高齢化の社会を迎え、労働の担い手を外国籍の人々に依存する割合が高まっている現在の日本社会においても目を向けるべき課題であるといえる。他方、世代交代とともにかつて移民した人々の記憶や遺物は、日本の社会において消失しつつあるといえる。

このような背景のもと、移民卓越県であった和歌山県では、移民の歴史を残そうという動きとともに地域によっては新たな団体が組織されて、移民した家庭に祖先の遺品（遺物）が保管されていることが明らかになってきた。その動きのなか所有者も高齢となってきており、これらの遺物と人々の記憶の保存が急務となっていた。

移民をめぐる遺物や記憶を保存し、目録化や展示などの方法で次世代へ継承していくことは、移民した先人が渡航先の国々で直面した困難についても知ることにつながり、移民を送出する側ではなく受け入れる立場となった現在社会においても、多様な文化背景を有する外国籍の人々と共に暮していくうえでのさまざまな示唆が得られることが期待された。

２．研究の目的

本研究の目的は、移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承であった。和歌山県は有数の移民県といわれ、複数の移民母村があり、その地の風土、産業、教育、当時の社会状況などを背景として、それぞれにユニークな特徴を有している。そういった地域のうち、カナダへの移民を多数輩出した日高郡美浜町および米国への移民が多かった紀の川市西大井を主たる対象地域として、そこに暮らす人々の記憶の掘り起しと未整理の遺物の記録化に取り組むことを目的とした。

本研究では、関係機関や団体との連携のともに遺物の保存と継承に取り組み、具体的には、その成果を展示会で公開することや紙媒体として発行し和歌山県下はじめ関係機関において残していくこととした。最終的には、他の移民卓越県においても憂慮されている移民をめぐる記憶や資料の消失を防ぐためのモデルケースとなることを目指した。

３．研究の方法

当該研究では次のサイクルをフレームワークとして想定し、その後のモデルケースとなるような実践的な研究を目指した。

地域の関連機関や団体と連携しつつ「移民資料や人々の記憶をめぐる調査研究」を実施
→「目録化・デジタル化による保存」
→「展示などによる成果の公開・発信」「紙媒体発行による記録」＝「学生、県民など一般への歴史教育・伝承」
→「新たな情報の掘り起し」
→　新たな情報などに基づく「移民資料や人々の記憶をめぐる調査研究」→（繰り返す）

上記のサイクルに則った研究の具体的方法および成果の公開方法は、次のようになる。

（1）　移民資料調査は、米国への移民に関しては特に和歌山県紀の川市に組織された移民に関わる団体（那賀移民史懇話会）との連携による移民した家族のいる家庭に保存されていた遺品（遺物）の確認と整理や撮影
（2）　カナダ移民に関しては、和歌山県日高郡美浜町およびカナダ BC 州に本拠地をおく BC 州和歌山県人会の会員や関係者との面談による聞き取り
（3）　日本およびカナダの移民を扱う博物館などにおける資料調査
（4）　展示会開催による移民の遺物の公開（於：和歌山大学紀州経済史文化史研究所や美浜町のカナダミュージアム）
（5）　資料の存在を記録するための目録の発行・教育や移民の歴史を周知するための展示会配布用パンフレット（日本語版、英語版）の発行・帰加二世によるエッセイを中心にまとめた冊子の発行

４．研究成果

平成 30（2018）年度

（1）　2018 年 10 月 28 日～11 月 3 日、カナダ（バンクーバーおよびリッチモンド市）を訪問し、博物館などで日系人の足跡や資料の保存および公開の方法を調査した。その行程の一部では、日本およびカナダの大学の研究者たちとも共同調査を行った。また BC 州和歌山県人会関係者と面談し、現地の現在の状況ついて情報を得た。

（2）　2019 年 3 月 7 日～3 月 31 日開催。学外展示「移民と和歌山―三尾のカナダ移民―」於：カナダミュージアム（和歌山県日高郡美浜町三尾）

カナダでは BC 州和歌山県人会の関係者との面談に加え、当地のサケ漁に携わったに敬意人に関連する歴史施設などを訪問し情報収集を行ない、その後の新たな連携の糸口も見出せた。

カナダ移民を多数送出した和歌山県日高郡美浜町三尾において、NPO 法人日ノ岬・アメリカ村との連携により、地域に保存されている資料の確認に着手し、その成果として、美浜町三尾にオープンしたカナダミュージアムにおいて展示会を開催し、広く一般に公開することができた。加えて移民した家族がいる来場者から複数の情報提供を得ることができた。

平成 31・令和元（2019）年度

（1）　2018 年度に延期していたリーフレット（『移民と和歌山 三尾のカナダ移民』）を日本語と英語の 2 言語で発行した。カナダ移民を多数送出した和歌山県日高郡美浜町地区を取り上げた内容で、手に取ることが容易な形態として三つ折りパンフレットとした。データ提供などで調査に協力頂いた移民に関わる機関や団体から配布を開始した。一般への公開という目的だけでなく、教育資料として、学生など若者が和歌山県の移民に関心を持つ入り口となるものである。

（2）　当初の計画通り、和歌山県紀の川市西大井周辺からの北米移民に関する資料のデジタル化・目録化の完成を目指し、同地の移民に関わる団体代表と協働し、資料の確認を行い、2020 年度における成果の公開方法の具体を検討した。

2019 年度の主な成果としては以上であるが、移民をめぐる関係機関・団体との連携が深まり受託研究にもつながった。また和歌山県の関係機関・団体と勉強会も行うなどネットワークの維持と強化に努めた。

令和 2（2020）年度

（1）　2020 年 10 月 16 日～11 月 5 日開催。企画展「亜米利加へ、加奈陀へ―遺物と記憶から振り返る移民と和歌山」於：和歌山大学紀州経済史文化史研究所展示室。
同展の共催機関・団体は、太地町教育委員会、美浜町、那賀移民史懇話会、NPO 法人日ノ岬・アメリカ村、後援機関・団体は、（公財）和歌山県国際交流協会、わかやま南北アメリカ協会であった。このように多くの機関・団体と連携を図ることができた。またコロナ感染症拡大予防のために入場制限を講じたため、展示終了後より 2020 年 3 月 31 日まで、そのダイジェストを YouTube で公開した。

（2）　カナダ移民に関する資料の目録化について、資料館保有会社の了承のもとに、和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要 41 号に共著論文『移民資料の保存活動－アメリカ村カナダ資料館資料 目録』を投稿し掲載された。これによりアメリカ村カナダ資料館に保管されている資料の目録化ができた。

（3）　地域に存する移民に関わる団体（那賀移民史懇話会）と連携し、那賀地方からの米国移民の資料の目録化に取り組んだ。その成果は当該団体の代表や顧問の協力のもとに『移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承～那賀地方における移民の記録～』として発行した。

当初予定した海外調査は断念せざるを得なかったが、多数の移民を送出した和歌山県内の地域を訪問し、またメールやオンラインで海外在住の方々ともコンタ クトをとりながら、アメリカおよびカナダへの移民に関する遺物や記憶の保存に努めた。展示による公開と移民資料の目録化を進めることができた。

令和 3（2021）年度

（1）　米国に移民した人々と那賀地方の人々の間でやり取りされた絵葉書の整理を行った。資料整理に当たっては、地域の移民調査に取り組んでいる那賀移民史懇話会との連携を継続した。また目録の入力作業などでは学生も加わった。その作業を通して、学生は太平洋戦争以前の資料に触れ、学校教育では知る機会のなかった日本人移民の歴史に触れ、それへの関心を示す様子がうかがえた。

（2）　目録化した資料（資料名：西家関連資料、梅田家関連資料、並松家関連資料、清水家関連資料）は、合計 400 点以上あり、各家庭で保存し続けることが困難となってきていたが、本取り組みを通して目録化が完了したことによって、和歌山大学紀州経済史文化史研究所（博物館相当施設）に寄贈された。このことにより、那賀地方

の移民資料の今後の散逸を防ぎ保存していくことが可能となった。

新型コロナ感染症の蔓延により、令和３年度も海外調査は叶わなかったが、令和２年度に発行した那賀地方からの米国移民の資料目録『移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承～那賀地方における移民の記録～』をベースとして、米国移民に関する資料の目録作業を継続できた。また、令和２年度の目録完成により、資料が大学に寄贈され、将来に亘る保存が可能になった。今後、展示などを通して公開し、資料を通して和歌山県における移民史を語り継ぐことが重要となる。

令和 4（2022）年度

（1） 那賀地方の遺物については令和 2 年度に目録を出版しているが、さらにアルバムなどの資料の提供があった。資料提供者に親族が移民されていた当時の思い出や現在も米国に暮らす親族との交流などについて聞き取りを行い、あらたな情報収集につながった。

（2） 米国で使用された教科書などの書籍（児玉家資料）の確認と目録化をすすめることができた。

（3） 北米を主たる調査対象としてきたが、戦後の南米移住の 開に尽力した松原安太郎（和歌山県みなべ町出身）の生誕 130 周年記念の年であったため、松原に関する情報収集にもあたり、和歌山県中南米交流協会と連携し、その成果をパネル展示として公開した。11 月 8 日～12 月 23 日開催。「ブラジル移住者の父 松原安太郎生誕 130 周年記念 企画展 「移民と和歌山 2022 ブラジル移住者の軌跡をたどって」於：紀州経済史文化史研究所展示室

「移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承」という点において、前年度につづき一定の調査がすすみ目録化を進めることができた。令和 4 年度は、戦後の南米移住に貢献した松原安太郎という先人を取り上げて展示会を行うことによって、一般および学生にも和歌山県の移民の歴史に触れる機会を提供し関心を高めることにつながった。研究代表者のゼミ生は、11 月 23 日、和歌山県中南米交流協会主催のシンポジウム（於：田辺市）でグループ発表を行った。以上の取り組みを通して、地域に組織されている団体との連携を密に図ることができ、次世代への継承につながる活動が生まれたといえる。

令和 5（2023）年度

（1） カナダ在住の二世や BC 州和歌山県人会の代表らに聞き取りを行い、その成果は、東悦子編著（2024）「帰加二世 水田治司氏の『雑記帳』から」 にまとめることができた。また、三つ折りパンフレット（2024）『三尾のカナダ移民』日本語版および英語版を改訂し第 2 版を発行した。助成を受けたことにより、移民に関する記憶の記録や遺物の目録化が進み、和歌山県内団体および移民先に暮す和歌山県にルーツを持つ人々との相互理解や連携も深まった。

（2） 日本移民学会第 33 回年次大会（於：神田外語大学）において、ラウンドテーブルをコーディネートし、自身も発表した。

研究期間全体を通じて、移民県和歌山における移民に関する記憶ならびに遺物の調査を行い、その成果を出版や展示会によって公開した。また、日本移民学会において和歌山県下の関係機関とともに発表を行い、これまでの取り組みについて公開し他府県の移民研究者と討議した。

6 月 25 日　ラウンドテーブル D（3 階 4-304）

「和歌山県における移民をテーマとした取り組みの状況と連携について」

モデレーター：東 悦子（和歌山大学）

「移民の記憶と遺物の保存活動—次世代への継承を目指して」 東 悦子（和歌山大学）

「海を越える太地—太地町における移民研究と活動」 櫻井 敬人（太地町歴史資料室）

「和歌山移民研究と美術－和歌山県立近代美術館の取組みについて」 奥村 一郎（和歌山県立近代美術館）

「和歌山移民研究を軸とした国際ネットワークの構築とウェブサイト『移民と美術』について」 青木 加苗（和歌山県立近代美術館）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 東悦子・吉村旭輝	４．巻 41
２．論文標題 移民資料の保存活動ー「アメリカ村カナダ資料館資料目録」ー作成プロジェクト	５．発行年 2021年
３．雑誌名 和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要	６．最初と最後の頁 63-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19002/AN00051020.41.a63	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 東悦子
２．発表標題 移民の記憶と遺物の保存活動―次世代への継承を目指して
３．学会等名 日本移民学会第33回年次大会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

1.　研究成果をまとめ、次の資料として発行した。
（1）東悦子著（2020年3月）『移民と和歌山 三尾のカナダ移民』日本語版・英語版（三つ折りパンフレット）
（2）東悦子編著（2021年3月）『移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承～那賀地方における移民の記録～』
（2）東悦子編著（2024）「帰加二世 水田治司氏の『雑記帳』から」
（3）東悦子著（2024年3月）『移民と和歌山 三尾のカナダ移民』日本語版・英語版を改訂第2版（三つ折りパンフレット）
2. 次の展示会を主担当として企画・制作した。
（1）2019年3月7日～3月31日開催。学外展示「移民と和歌山―三尾のカナダ移民―」於：（2）2020年10月16日～11月5日開催。企画展「亜米利加へ、加奈陀へ―遺物と記憶から振り返る移民と和歌山」於：和歌山大学紀州経済史文化史研究所展示室。
（3）2022年11月8日～12月23日開催。「ブラジル移住者の父 松原安太郎生誕130周年記念 企画展 「移民と和歌山2022 ブラジル移住者の軌跡をたどって」於：紀州経済史文化史研究所展示室

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関